

サーキュラー エコノミーを創る

東海大学政治経済学部
経済学科教授

山本 雅資

7

■筆者略歴■博士（経済学）。富山大学極東地域研究センター准教授、富山大学学術研究部社会科学系教授などを経て、2021年から現職。専門は環境経済学、環境政策学。著書に「環境経済学の政策デザイン：資源循環・低炭素・自然共生」等。

私の専門分野である経済学では市場の力を重視している。世界中の企業や消費者一人ひとりが自らの意思で分

「市場を創る」というのが自らの意思で分

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

目指すは社会のリデザイン

「市場の失敗」の最終的に意思決定をし

日本のやり方でCE

経済産業省による

「循環経済ビジョン2

020」をみると、我

が国のCEが向かう方

向性が、EUをはじめ

とする国際的な方向性

と大きく異なるように

は思えない。その一方

それぞれの国の産業構

造や気候、地政学的な

立ち位置はさまざま

ある。同じゴールを目

指すとしても、そのゴ

ールにたどり着くまで

の道は多種多様なもの

にならざるを得ないだ

ろう。日本について言

えば、優れた製造業の

GDPに占める割合が

あろうか？日本では2

000年ごろから各種

リサイクル法が整備さ

れている。例えば、容器

包装リサイクル法は参

加している自治体が収

集した使用済み容器包

装（ビンやPETボト

ル等）を全国的に入札

に付ける仕組み（逆有

償）バズビーの場合は

処理費を支払う）を提

供しているが、これも

市場が形成されていく

を追求する人間活動を

目指すは社会のリデザイン

目指すは社会のリデザイン

目指すは社会のリデザイン

目指すは社会のリデザイン

目指すは社会のリデザイン

この規則案が発効され

ると、自動車メーカー

は一定量の廃車由来プ

ラスチックを必ず受容

は創られていく。これ

らなくても廃プラスチック

市場は存在したが、そ

向けて

本連載の第3回（梅

田靖）において、CE

使用」は、プラネタリ

ー・バウンダリーの視

点からも望ましいこと

である。これまで数多

くの消費者の中から中

古品のユーザーを見つ

けることは簡単なこと

ではなかったが、IC

T技術の進化により、

メルカリに代表される

ようなデジタルプラッ

トフォームがこの情報

流通の問題をうまく解

決したビジネスモデル

を提供し、市場が創ら

れたのである。以前は

考えられなかったよう

な分野でもリユースや

サプスク립ションが

らしくCEを追求す

る、そうした姿勢で社

会のリデザインを進め

ていきたいものである

率的に流通させること

は言うまでもなく、C

がある。

再生プラスチック（う

ち廃車由来25%）とす

ることを定めている。

再生プラスチック（う

ち廃車由来25%）とす

ることを定めている。